



CLUB OFFICE
京都YMCA 三条本館
京都市中京区三条通柳馬場角
TEL 075-231-4388

THE Y'S MEN'S CLUB OF

Kyoto Prince

THE SERVICE CLUB OF THE YMCA

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MENS CLUBS
"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

2016

6

Bulletin
2016.6.1発行
第30巻第12号通巻366号

主
題

- 国際会長 信念のあるミッション Mission with Faith
アジア会長 愛をもって奉仕をしよう Through Love, Serve
西日本区理事 あなたならできる！ きっとできる “You can do it! Yes, you can!”
—生きる しなやかに さわやかに— —Live flexibly and refreshingly—
京都部部长 いつも喜んでいなさい
メネット主任 メンと共に メネットはワイズの応援団

聖
句

御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて聞くだけで終わる者になってはいけません。
ヤコブの手紙1章22節



『 感 謝 』

第30代会長 蒔田 茂夫

会長主題を【喜び楽しみ皆で笑おう】と掲げスタートした今期もあつと言う間に過ぎ去ろうとしています。はたして主題どおりの一年を過ごせたかと言うとそうではなかった事もあったかもしれません。しかし例会時の会長挨拶に一年間この主題を言い続けてきたわたしはせめてクラブメンバーが集まる時は喜んでいたいし楽しみたいし笑っていたい、ただただその思いだけでの事でした。今年一年をふりかえてみると感謝の一言に尽きます。喜べた事に感謝、楽しめた事に感謝、皆に感謝、笑いあえたことに感謝です。

一年前わたしのような者が会長に就いて、周りから見ると頼りない会長と映った事でしょう。頼りないままのあつと言う間の一年でしたが、同期会長と親睦を深められた事、マーシャルとして参加できたアジア大会など貴重な経験がたくさんできた事はこれからのわたしにとってかけがえのないものとなりました。

非常に充実した一年を送れた事に感謝するとともにわたしのような会長を支えて頂いた副会長、各事業委員長、クラブメンバーの皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

来期プリンスクラブは30周年を迎えます。メンバーの心に残る記念事業をしたいものです。またホストクラブとして京都部会を開催する期でもあります。しっかりと準備をして大成功を収めたいです。わたしひとりの力は微力ですが感謝の気持ちを忘れずに本気で頑張ります。クラブの皆様、来期も全員の力を合わせて必ず素晴らしい一年にしましょう。

最後に高田京都部長、事務局、各事業主査の皆様 一年間お世話になりありがとうございました。

会長主題

喜び楽しみ
皆で笑おう

会長 蒔田 茂夫
副会長 田中 邦昭
三村 良行
書記 森 伸二郎
会計 小野 敏明
林外会長 蒔田 智美

強調月間

評価・計画

6月 例会案内

1日(水) 通常例会

新入会の2人のメンバースピーチと、京都部会の準備委員会です。

18日(土) 引継例会

第30代会長から第31代会長への引継例会、とは言うものの蒔田会長は継続就任。三役と委員長の引継です。

例会出席

5月第一例会	14名
5月第二例会	10名
在籍者数	16名
メンバーシップ	0名
出席率	93.8%

BFポイント

切手	pt
現金	円
累計	24,000円

ファンド

名刺ファンド	2,500円
--------	--------

累計 431,954円

ニコニコ

5月第一例会	12,000円
5月第二例会	0円
累計	62,000円

5月第一例会

2016/5/11
榎木 徳子



5月第一例会は、京都部会の予算の大枠とアトラクションの最終の詰めについて意見を交換しました。それに先立ち、関西盲導犬協会からお越しいただいた久保様に寄付金を贈呈致し、昨年ファミリー例会でおじゃました訓練センターに新しい犬舎ができたお話をさせていただきました。

予算については、西村ワイズの必死の交渉と、廣井次期部長の冷静な意見により、大枠が決定し、Ⅱ部・Ⅲ部の構成も骨格が決まりました。今後は登録数をできるだけ増やすためのアピールにも注力していきたく思います。

また、会長挨拶やニコニコでは、田中ワイズが無事退院されたという嬉しいお話もありました。早く例会にも出席できるといいですね。



5月第二例会 チャリティーラン

2016/5/22
三村 良行



今年の大会より名称を第12回京都YMCAインターナショナルチャリティーラン2016inかもがわに変更開催。クォーターマラソンコースも河川敷工事の影響で下記のように変更。

朝から青空の下、太陽全開の5月22日日曜日、鴨川公園特設コース(北大路橋～出雲路橋1周1.7km/北山橋～丸太町橋折り返し10.5km)に約590名の参加者、約280名のボランティアが集まり、京都YMCA主催、日本YMCA国際賛助会、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区京都部共催で開催されました、大きなけがや事故、トラブルもなく無事に全ての競技が終了、まだ5月だと云うのに大変熱い一日で参加された選手、スタッフの皆様お疲れさまでした。

毎年好評のわがプリンスクラブ屋台出し物であるホットドック販売も今年からはかもがわ河川敷での加熱調理の制約等の指導があり、斎藤Yサ委員長の段取りであすかいワークセンターより調理済みパンを購入販売に変更して協力。常連の参加者の方々からは、ホットドック楽しみにしていたのに残念とのお声を頂きました。もうひとつの恒例である関西盲導犬協会さんによるグッズの販売も今回からは規制の対象になるとの事でご一緒出来ないことが残念でした。色々例年と違う運営でしたがメンバー、メネットの御協力を頂き販売に少し苦戦はしましたが無事に170個完売。なお、今回は253.1万円の参加費、協賛金などが集まったと報告がありました。



熊本地震緊急支援街頭募金

2016/5/15
岡西 博司



5月14日15日と全国のYMCAでは、一斉の募金活動を行いました。京都では15日のみ街頭募金をすることになりました。当日は、街頭募金に先立ち、熊本YMCAへ応援に京都YMCAより派遣された遠藤浩さんと三人のリーダー達から報告会が持たれました。

現地では、四時間の睡眠で働きづめのスタッフ達が限界に達している状態なのを、何とか6時間の睡眠をとってもらおうと全国のYMCAから、それなりの能力を持ったスタッフ達が応援に来ていたそうです。又、厳しい現状の話等を三人の女性のリーダー達からも話されました。

その後、三か所に分かれて、街頭募金に出かけてゆきました。やはり、急なこともあり、二十数名の参加者で一か所に7～8名で二時間募金活動を行いました。

僕は三条大橋で炎天下の下頑張りましたが、なかなか集まりません。全体では、11万円ほどの募金が集まりました。前回の街頭募金や多くの寄付たちを集めると、約300万ほどのお金が集まり、早々に100万ほどを神埼主事が熊本へ持って行かれたそうです。

僕たちもそうですが、前に寄付したからそれでええやん。と、つい思ってしまいがちですが、まだまだ熊本では地震が続いて、これからも永く応援してゆかねばならないと思いました。

5月晴れの中、「100万人とキャッチボール」をテーマに第22回ダイワハウス工業少年少女野球教室が、舞鶴東公園野球場で地元の子どもたち約180名、監督・コーチを含め保護者約100名、合計280名で実施されました。

このイベントは、プロ野球OB会が全国一斉に開催するもので、大門和彦さん(京都キャピタルワイズメンバー)、米谷信夫さん、中島裕司さん、亀山努さん、川中基嗣さん、小川裕介さんの元プロ野球選手6名が指導されました。走塁・守備・打撃とそれぞれの場面で、子どもたちに丁寧に指導され、また、それを監督・コーチが傍らで子どもたち以上に熱心に聞いていました。子供たちの声が響き、目を輝かせて、指導者の一挙手一投足が力となっていくように感じました。

今回の野球教室には、今年度設立を目指す(仮称)舞鶴ワイズメンズクラブのメンバー候補の人たちと京都の設立準備委員会の人々との交流も目的の一つでした。幟や横断幕の設置、グラウンドの水撒き、受付での配布物セット、司会等皆で会を成功へと導きました。ごちこなかった細かい繋がりが、終了時には、太い絆となったことでしょう。また、舞鶴YMCA国際福祉専門学校生が、「熊本震災被災地支援募金」へのアピールもを行い、この願いとともに熊本へ届くことを切に願いました。

今回のイベントで多くの繋がりができ、深緑の青空へ白球が大きく弧を描く光景は、YMCAが今後舞鶴の地に根づく第一歩のように感じました。



プリンスクラブ 設立30周年に向けて

(クラブ誕生編)

廣井 武司



チャーターナイトを終えたプリンスクラブは、いよいよ行動開始。8事業委員会も着実に動き出しました。この半期は例会に重点をおいて多くのゲストスピーカーをお招きして勉強しました。2年目は新会員獲得と参加したくなるプログラムづくりに邁進。台中エバーモアークラブとのIBC締結に向けて加速した1年でした。1988年には京都での国際大会に参加。大いに国際クラブを意識した年になりました。1989年3月には賛否両論、いろいろありましたが、待望の台中エバーモアークラブとのIBC締結にごぎつけました。この年、ほんとうによくモメましたが、終わればまたいつもの笑顔にもどっていました。

翌年は行事に追われるより、ゆっくりとていねいに、そして心を込めて事業に取り組もうとした1年になりました。もうこのころから事業が多すぎるのではとの意見もでてきました。この年、次期の京滋部部長をクラブから輩出がきまっており、部会のホストの重責がメンバーの上のしかかってきました。連日連夜検討をかきねてプリンスらしいみんなに感銘を与える部会を企画、他クラブへ部会アピールに走り回りました。

1990年9月、436名の参加者で第8回京滋部部会。初めての経験、震えが止まらなかったのをおぼえています。しかしこのとき、メンバー全員が本当に一致団結して行動したことが印象的でした。部会最後のあいさつで涙がとまらず、閉会后、会長と抱き合い2人して泣いたことを忘れません。この年メンバー数は40名になっていました。

部会の翌年は、例会重視の1年に。12名のゲストスピーカーをお迎えしての例会は、クラブの基本に戻れました。5周年記念例会は派手にせず、ホテルで少人数でもたれ、YMCAへレサシアン2体を記念事業として贈呈しました。

1992年7月、第7代岡西会長の登場です。特筆すべきは100人例会の開催、新会員4名入会、2度の台中訪問、美山での1泊ファミリー例会など、パワフルな1年となり、西日本区大会では6部門で表彰を受けました。

1993年、この年新旧のメンバーのなかでクラブに対する考え方に意見の違いがでてきたようで、時の会長はいい経験をしたとのこと。ワイズデー企画プリンス洗車会でKBSのインタビューに会長出演もありました。この年メンバーは48名になっていました。

翌年、サバエワークで始まり、例年のとうり新年度が始まりましたが、1995年1月17日の阪神・淡路大震災で状況が一転、募金活動、炊き出し活動と頑張りました。2月には台中エバーモアークラブのメンバーが来京、多額の義援金を京都YMCAに渡していただきました。

震災の余韻が残る中、新年度がスタート。今期は10年を前にして初心を考える1年を目指しました。例会は「文化」がテーマであったように思います。この年40名の会員でした。

1996年11月9日、10周年記念例会がプリンスホテルで多くのワイズの参加で持たれました。盛会裏に終えることができましたが、そのあとクラブを揺るがす出来事が……

ごめんやっしゃ、YMCAさん

今回で最終回です。最終回は、今年4月に入られたばかりの唯一の女性スタッフである、平井菜那(ヒライ ナナ)さん取材させていただきました。

彼女は、我々の連絡主事である藤尾さんの直属の部下という事で、6階のプールの方のスタッフとして配属されています。年齢は22歳で、同志社大学社会学部社会学科を卒業したばかりの初々しい女性です。なんと卒業論文は、家族関係と社会の関わり方という様なテーマで大論文を書かれたそうです。

なぜ、YMCAを就職先に選ばれたのですか？YMCAの活動が楽しそうだったからです。キャンプやリーダー達、プール事業等、自分も参加したいと思いました。

学校での勉強した事が直接影響している訳ではありません。との答え。

趣味は何ですか？オーボエを吹いています。中学の時からオーボエと出会い、大学の時には、同志社交響楽団には行って、オーボエの奏者として活動がしていました。(何と素晴らしい。今年のクリスマス例会に来て来てもらおうかな)

将来の夢は？との問いには、トリリングガルになる事です。日本語と英語と、あと1つ何語かをマスターしたいです。

英語は達者なの？いいえ、気合いで喋るほうです。(僕と一緒にかな)

他には何かありますか？YMCAの将来についてよく考えます。藤尾さん達がいなくなった後、自分が役に立つ人間になりたいです。(頼りにしていまっせ)

取材中終始ニコニコしていて、少し天然という感じで、笑いの絶えない取材でした。この性格をずーっと持ち続けて、笑いの絶えない楽しいYMCAにしてくれる様な人に育って欲しいと心より思いました。頑張れ♥



プリンスクラブ・メンバー紹介

藤尾 実 (ふじお みのる)



今年度、連絡主事として、4年ぶりにプリンスクラブに戻ってまいりました。前はわずか一年間で、ここに記すことはあまりプリンスクラブのみなさんにはお話ししていなかったかもしれません。

今までの半生を振り返りますと、子どものころからスポーツに親しみ、小学生時は少年野球で6年生時、9番ショートでしたがバッティングのあまりにもものセンスのなさに、中学生時はバスケットボール部に入りました。3年生時にはレギュラーを勝ち取りましたが、キャプテンに叱られてばかりで限界を感じ、高校はサッカー部に所属。花形エースストライカーをめざしましたが、足技不器用で結局ゴールキーパーとなりました。このスポーツを通した楽しい体験と挫折が、今の私を作ったと

言っても過言ではありません。

話は変わり、YMCAのお話を・・・。普段は体育活動の6階事務所におり、他、野外活動、リトリートセンター、発達障がい児サポートプログラムなど事業全般の担当をしています。YMCAとの関わりは、大学受験に失敗し、神戸YMCA予備校に通ったのがはじまりです。大学に入学し、キャンプリーダーになり(ちえりーリーダー)、YMCAにどっぷりとハマりました。YMCA入職したのは、「人と関わり、人の成長に関わりたい」という思いからでした。あれから22年今も変わらないといえますか、変われないといえますか、成長がないといえますか、思いは変わっていません。YMCAと関わることによって、さまざまな体験をすることができ、多くの魅力的な人と出会い、人生の幅が広がりました。そんな思いをYMCAに関わっていただいたみなさんに体感していただきたいと思っています。これからプリンスクラブとYMCAの橋渡しに努めてまいります。どうぞよろしくお願ひします。



恵美 奈博光
(大阪サウス)

Y's Mens Club is international ～ボランティア活動を通じて～

青年時代にYMCA、ワイズメンズクラブに縁あって入会をし50数年が過ぎました。当時の日本は戦後の貧しさがまだ残っていて欧米の文化がまばゆいばかりに日本人全体に注がれていた。復興期の日本は右肩上がりの経済成長を歩み、ワイズメンズクラブも毎年各地で新しいクラブの誕生があたり前のように見られていた。そんな社会背景の中でYMCA・ワイズメンズクラブの例会や会議の運営は若い私にとってとても魅力的でスマートに写った。またクラブ活動が一般の企業や会社と違った営利を目的とせず、そのクラブの目標に向かってよりすばらしいものを作り出そうと全員で協力し合い、話し合い、汗を流し合うプロセスを大事にするワイズメンズクラブに

徐々に引き付けられていった。

大阪サウスクラブ創立20周年(1976年)のその年に会長を仰せつかり大阪河内クラブのスポンサークラブとして設立に大いに汗を流した。又その年は日本で初めての国際大会が熱海で開催されたことで多くの海外からのメンバーのホームステイや観光のお世話をするうちに国際奉仕のおもしろさを体で感じ、将来は是非国際の場面で奉仕してみたい気持ちになった。

今回65歳を過ぎてミャンマーに日本語のボランティア教師として約6年半マングレーYMCAで続けることができたのもこのときの経験があったからではないだろうか。

14年前に腎臓にガンができ右腎臓の三分の二を切除したが早期発見で命は取り留めることができた。その後5年間経過を経て、お医者様から大丈夫と告げられた。そこで少し時間的にも余裕ができたので、若いときに考えた何か国際の舞台でお返ししようと考え、31年前(1985年)に日本YMCA同盟主催で20名ばかりの青年や学生を連れて当時のタイ・ビルマ・バングラデシュを訪問する機会があった。そのような縁で、今回、日本語の先生をすることを決心しミャンマーに行くことにした。2006年から訪問して次にミャンマーに住み2013年5月に帰ってきた。その間、マングレーYMCAで日本語を教える傍らボードメンバーと一緒に総主事を助け、いろいろと運営面のお手伝いもした。学生は大学生や大学を卒業した男女です。

ミャンマーは日本の約1.8倍(約67万8,500平方キロ)の国土におよそ5100万人の人が暮らしております。周辺はタイ、ラオス、中国、インド、バングラデシュに囲まれていて、首都は2006年からネピドーに変わりました。気候は1年が3季で雨季(6月中旬～10月中旬)、乾期(10月下旬～3月中旬)、暑期(3月下旬～6月初旬)、です。

宗教は全体の85%が仏教徒でキリスト教5%、ヒンズー、モスレム、土着の宗教ナツ教 他です、また、民族は135以上の少数民族。言語は公用語はミャンマー語でそれぞれの民族が自分たちの言語を持っていて英語もかなり通用します。

ところで、皆さんはミャンマーと聞いて何を想像しますか? 「街中タワークレーンが立ち並びドンドン経済発展しつつある国」と言ったイメージが「アウンサンスーさんの率いる政権になって民主化になりつつある国」と思うかもしれませんが、しかし実際にミャンマーを訪れると、想像していたよりも実に多様で、驚きに満ちた光景に出会うことがたくさんあります。広大な大地を包む深い緑、透き通るような青空に白い雲がゆらめき、金色の寺院やパゴダが光輝く光景、また、真っ赤な夕日が大地と空を赤く染めて、世界3大仏教遺跡の一つ、古都バガンの幻想的な雰囲気にも包まれている光景。これらの自然と歴史が調和した風光明媚な景色を、目の当たりにしたとき思わず息をのむことがあります。私もミャンマーの各地で何回となくこのような思いを経験しました。

ところで、私は2011年のタンシュエ将軍からテインセイン大統領に代わった転換の動きを現地で見ることができました。それは当時、私にとり驚いたり、びっくりしたりした連続でした。現地の人々も半信半疑で次々と打ち出される政府の発表を見守っていました。ただ、軍事政権の圧力がやわらいだ事によって全体の社会の中で緊張感がゆるんで、犯罪が増えたり、民族間の摩擦や衝突が起こるようになりました。

いろいろな問題が起こり、複雑な歴史背景を持つ国の舵取りは性急な変革では無く、緩やかな民主化を望んでいる人が多いようです。今年の3月にアウンサンスーチーさん率いるNLDが政権を握り民主化が進む中で、ミャンマーは将来に多くの可能性やビジネスチャンスを秘めていることは確かです。益々日本との関係は深まり発展していくことでしょう。どうぞご注目を頂き、一日も早い平和が訪れることを共に祈りたいものです。

私にとってワイズメンズクラブに入会したことでこのような貴重な経験をすることができました。全国のワイズの仲間には国際のフィールドで色々な活動や奉仕をされている方々が沢山いらっしゃいます。一人一人が民間大使となって現地の皆さんと仲良く交流することは世界平和のお手伝いをさせていただいていることに繋がると思います。

皆さん大いに世界に目を向けましょう。 Y's mens club is international ですね。



1. 熊本地震緊急支援募金にご協力ください。
4月14日から熊本地方で起きている連続地震により、依然として多くの方々が避難生活を余儀なくされています。京都YMCAは全国のYMCAと協力し、熊本YMCAを通じた支援のための緊急支援募金を行っております。ぜひご協力ください。

受付期間: 2016年6月30日(木)まで
募金方法: 京都YMCAの各階窓口にお届けいただくか、以下にご送金ください。

《郵便振替》 01050-7-19132

加入者名: 京都YMCA 奉仕活動基金

※通信欄に「熊本支援」とお書きください。

《京都銀行》 京都銀行本店(普通)5183732

口座名義: 公益財団法人 京都YMCA熊本震災募金 代表理事 神崎清一

ザイ)キョウトワイエムシーイー クモトシサイホキ

※寄付金控除のため領収書をご希望の方は、「住所」「氏名」「振込日」をkyoto@ymcajapan.org までお送りいただくか、京都YMCAまでお電話ください。

熊本地震・被災YMCA支援募金のお願い

上記の熊本地震の被災者支援募金に併せて、「被災YMCA支援募金」も受け付けています。

今回の地震では、熊本YMCA自体も被災しており、YMCAの建物に損傷が出て一部使えないところがあるほか、地震直後から通常の事業が再開できずに熊本YMCA自体の運営にも大きな影響が出ています。

そのような中で被災者支援がスタッフによって行われています。そこで全国のYMCAでは、熊本YMCAを支えるための募金も併せて募集しています。

被災YMCA支援募金にご協力いただく方は、受付でその旨申し出ていただくか、上記の郵便振替の口座(京都銀行は被災者支援のみ受け付けます。)にお振込みいただき

通信欄に「被災YMCA支援」とお書きください。よろしくお願いたします。

2. 会員オリエンテーション

維持会員BとしてYMCA運動を積極的に担っていただくという意欲のある方を対象に、YMCAについて理解をより一層深めてもらうための会員オリエンテーションを開催いたします。

京都YMCAに入会して1年以上の方で、定款に定められた目的に賛同し、維持会員Bとなる志のある方は、ぜひご参加ください。

日 時: 2016年6月13日(月) 19時00分～

場 所: 京都YMCA三条本館 201号室

内 容: 京都YMCAの使命、日本YMCA基本原則について/京都YMCAの組織と事業について会員活動について

お申込み: 申込書に必要事項をご記入のうえ、6月6日(月)までにYMCA受付またはFAX、E-mailにてお申込みください。

(075)231-4388/(FAX)075-251-0970

(E-Mail) c-run@kyotoymca.org

3. 2016年度会員協議会

公益財団法人京都YMCA第5回会員協議会を開催いたします。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

日 時: 2016年6月24日(金) 19時00分～

場 所: 京都YMCA三条本館 地階マナホール

内 容: リブランディングについての報告、京都YMCAの一年の事業報告など

連 絡 先: 事前に出欠連絡を京都YMCA本部までご連絡ください。

(075)231-4388/(FAX)075-251-0970

(E-Mail) c-run@kyotoymca.org



5月はあずさ部評議会が開催された以外には特別な行事もなく、平穏な一月でした。例会では会員増強が討議され、来年中には何とか20名の大台に乗せるべく、方策を考えることになりました。

おめでたい話の一つ、一番若いメンバーが6月に結婚することになりました。詳しくは来月号で報告できると思っています。

5月度 役員会報告

報告事項

●舞鶴クラブ設立総会を以下の要領で、6月19日に開催されます。

東舞鶴 ホテルマーレたかた

12時開会 登録費4000円(昼食含む)

承認された事項

●田中邦昭ワイズ、病気療養につき広義会員とする

●引継例会登録費 メン: 無料

メネットとコメント大: 3000円 ゲスト: 8000円

6月 スケジュール

1日(水) 第一例会
19:00 グランドプリンスホテル

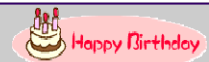
4日(土) 5日(日) 東日本区大会
長野市若里市民文化ホール

18日(土) 第二例会 引継例会
18:00 グランドプリンスホテル

25日(土) 26日(日) 西日本区大会
13:00 松下IMPホール

29日(水) 役員会
19:00 京都YMCA

6月



3日 田中 邦昭ワイズ
6日 榎木 徳子ワイズ
30日 荒木 利彦ワイズ

記 後 集 編

ついに最終回を迎え、ほっとしています。みんなに読んでもらいたい。その一念でいろんな企画をやってみました。それなりに、楽しかったですが、少しYMCAの体質に腹が立つこともありました。又、いつの日にかプリテン担当しても良いななんて思っています。